

# 北海道社会保険病院だより

平成22年12月発行 第47号

発行・編集 北海道社会保険病院 企画室

## 「50になったら受けましょう!!」

副院長・泌尿器科主任部長

広瀬 崇興



今テレビをつけていると、世界一周マラソンを行っているタレントの間寛平（はざまかんぺいが正式な読み方とのことです）さんが「50になったら受けましょう!!」と叫び、その叫ぶ前に『前立腺癌が早くみつかってよかったですわ』と言っていました。

彼は現在、アースマラソンと称して、2008年12月からアメリカ大陸、ヨーロッパ、中国大陸のルートで、マラソン20,000Km、ヨット16,000Km、計36,000Kmを目指して、チャレンジ中とのことです。2011年1月には日本

に上陸予定です。その途中で前立腺癌の腫瘍マーカーであるPSA（前立腺特異抗原）の血液検査をアメリカで受け、その後も高値が持続することからトルコで針生検の検査を受け、早期の前立腺癌が見つかったそうです。一時マラソンを中断しサンフランシスコでホルモン療法と放射線療法による治療を受けながら、さらにチャレンジを続けているとのことです。

そこで私も強調したいことは、男性は50歳になったらPSAの血液検査を受け前立腺癌を早期発見し、早期治

療を受けましょうと言うことです。

ただPSAは正常な前立腺細胞が壊された時に血中に出てくる酵素ですので、癌細胞に壊された周囲の正常細胞からも出ますが、前立腺肥大症の時や炎症を起こした時や物理的刺激を受けた時でも高値（4ng/ml以上）になることがありますので、その辺の所を泌尿器科で診断してもらい、その結果必要な場合には針生検検査を受けてください。通常は麻酔を行いますので、2泊3日ぐらいの入院検査となります。

## 膝の水を抜くと癖になる？

整形外科部長 酒井 俊彦



外来で膝に水がたまっている患者さんに水を抜くことを勧めますと、「膝の水を抜くと癖になると言いますけど」とよく聞かれます。これは本当でしょうか。

関節に水がたまることを関節水症と言いますが、これは関節の中に大量の関節液がたまっている状態です。関節液は関節の中にある滑膜で作られ、滑膜で吸収されますが、何らかの原因で滑膜に炎症が起きると、関節液が過剰に作られ関節水症が発生します。炎症を起こす原因はいろいろありますが、代表的な病気は関

節の軟骨がすり減り骨が変形してくる変形性関節症です。

「水を抜くと癖になる」という言葉は、おそらく水を抜いても数日の間にまたすぐ水がたまってしまう状態を指して、昔から言われてきたものだと思います。抜いた後すぐに水がたまってしまうのは、前述したように関節（滑膜）の炎症がまだ治まっていないからであって、つまりは炎症を起こす原因となっている病気がまだ十分に治療されていないことを表します。決して関節から水を抜くという行為自体が、関節液をたまり

易くさせるものではありません。

膝の関節水症は、膝のはった感じ、動作時の痛み、関節の動きを悪くするなどの原因となります。決して癖にはなりませんので、関節の水を抜き、ヒアルロン酸製剤などの薬物を関節内に注入して炎症を抑える治療を行ってみてはいかがでしょうか。

# 地域医療連携室のご案内

総合医療相談部 地域医療連携室 看護係長 斉藤 広美

地域医療連携室は、患者さんが安心して医療が受けられるよう地域の診療所（かかりつけ医）や訪問看護ステーションなどの関係機関と連携を密にし、患者さんからのご相談をお受けしています。今回は、地域医療連携室の主な業務内容をご紹介します。

1. 「かかりつけ医」は日常的な診療や健康管理を行い、精密な検査や入院が必要な場合は「かかりつけ医」が書いた紹介状を持って来院すると、スムーズに治療を受けることができます。地域医療連携室は「かかりつけ医」と当院を結ぶ連携の窓口であり、「かかりつけ医」からの連絡を受けて受診や検査の予約をお取りしています。

また、当院に通院中もしくは入院中の患者さんから「かかりつけ医」を持ちたいと希望された場合、一緒に探す相談に応じています。

2. 医学の進歩に伴い、在宅で「酸素療法」や「点滴」「傷や管などの手当て」を行いながら療養することが可能となりました。しかし、在宅で医療処置を行

う場合「本当に自分たちがやってもいいの？」「不潔にしたらどうしよう」などの不安をもたれる方が多くいます。そのような時「訪問看護ステーション」の看護師にお手伝いを頂くことでスムーズに在宅生活を開始される方も多くおられます。

総合医療相談部の地域医療連携室には看護師がおり、訪問看護ステーションと連携し、退院後も継続して患者さんのケアをサポートできるよう日常生活や、ご家族への介護相談・アドバイスを行っています。

3. 「セカンド・オピニオン」とは、「主治医以外の医師の意見を求める」といった意味です。主治医から勧められた治療方法を選択するうえでの参考としていただくことを目的としています。地域医療連携室は「セカンド・オピニオン」を希望する方のご相談をお受けしています。

地域医療連携室は 外来棟の「新患受付」横にあります。是非ご利用ください。

# 健康教室のご案内

当病院では、健康への正しい知識を深める機会として、健康教室を開催しております。

医師、看護師、薬剤師等が分かりやすくお話しします。

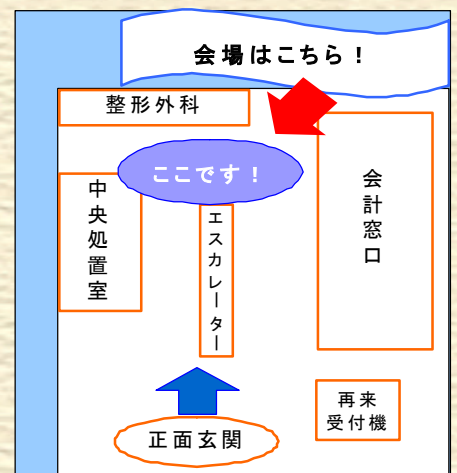
ぜひお気軽にお立ち寄りください。

どなたでも**無料**でご参加いただけます

12月・1月の予定

12月	8日(水)	9日(木)	10日(金)	15日(水)	16日(木)	17日(金)
1月	19日(水)	20日(木)	21日(金)	26日(水)	27日(木)	28日(金)

場所 外来棟1階  
ホピタルモール(エスカレーター裏)  
時間 11:30~12:00  
予約 予約はいりません。



外来の待合場所が会場です

★これまでの講話内容例…

医師／「糖尿病とその合併症」

看護師／「今日から始めませんか？生活習慣病対策」

薬剤師／「発掘！あるある薬辞典～コレステロールと薬について～」



※次号の発行は1月中旬の予定です。